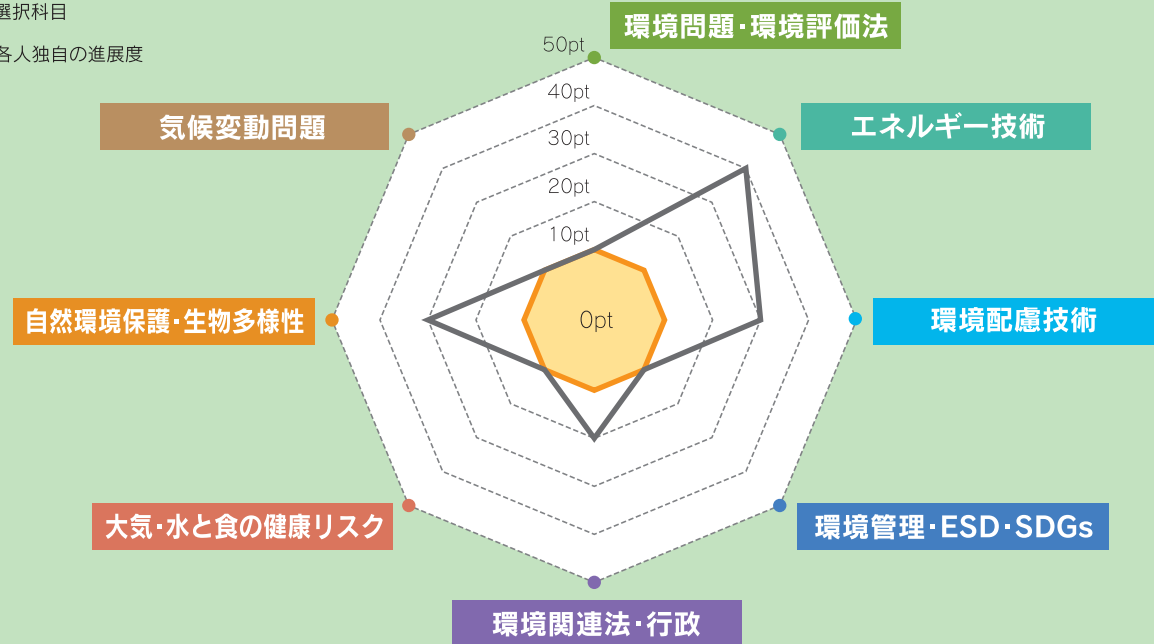


## 地域環境科学分野と各分野進展度評価例

下記レーダーチャートで受講者ご自身の進展度を確認することができます。

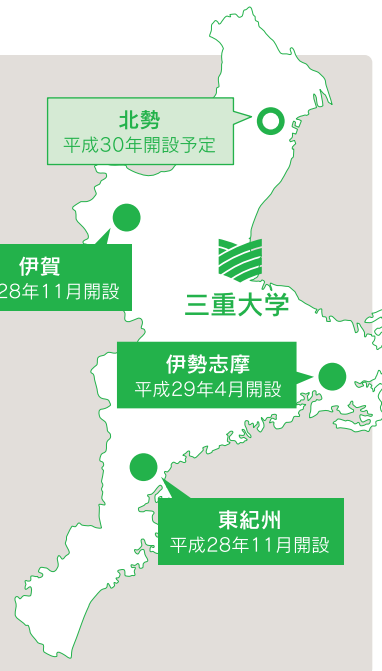
- 必修科目(各分野の概論)
- 選択科目
- 各人独自の進展度



## 三重大学 サテライト拠点

三重大学ではサテライト拠点においてもサイレッツの事業展開を行います。

- サテライト拠点
- 開設予定



## SciLets ビデオ講義の受講申し込み

### 1 ホームページから申し込む

<https://scienv.mie-u.ac.jp/>

上記アドレスをご参照の上、申込フォームに必要項目を入力し送信してください。

### 2 電話で申し込む

TEL 059-231-6986

受付時間/am9:00~pm4:00(平日)

お電話でお申し込みの方には受講申込書を郵送いたします。ご記入のうえ返信もしくはご持参ください。

無料  
法人会員

## 連携パートナー募集中

連携パートナーには『科学的地域環境人材』育成事業に関するお知らせやニュースを送らせていただきます。

一般社会人・  
企業・行政の  
皆様へ  
ver.4.3

## 『科学的地域環境人材』育成事業

# SciLets

サイレッツ



## 科学的知識を持つ環境人材が地域を活性化します

三重大学は地域に必要とされる「科学的地域環境人材」を育成し、環境保全と地域振興を目指します

LCA  
(ライフサイクルアセスメント)  
に基づいた  
科学的な環境評価ができる人材

ISO14001  
(環境マネジメントシステムに  
関する国際規格)  
の意義を理解できる人材

温暖化対策法、  
廃棄物処理法、生物多様性条約  
を理解できる人材

自然エネルギーや  
環境配慮技術に関する事を  
事例を基に学習・応用  
できる人材

気候変動枠組み条約など、  
環境に関連する  
専門知識を有する人材

環境をテーマに産官学民での  
異分野・異業種連携を  
主体的に促進できる人材

『科学的地域環境人材』育成事業についてのお問い合わせはこちらまで

国立大学法人 三重大学  
国際環境教育研究センター

支援室 TEL 059-231-6986 FAX 059-231-9859

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

<E-mail> scilets@gecer.mie-u.ac.jp

<WEBサイト> <https://scienv.mie-u.ac.jp/>

サイレッツ 検索



三重大学  
MIE UNIVERSITY

後援: 三重県



# SciLets 三重大学『科学的地域環境人材』育成事業は 全国・世界に広がる環境保全・地域振興の仕組みです。

SciLets = Scientific, Local and Environmental “Talented Staff”

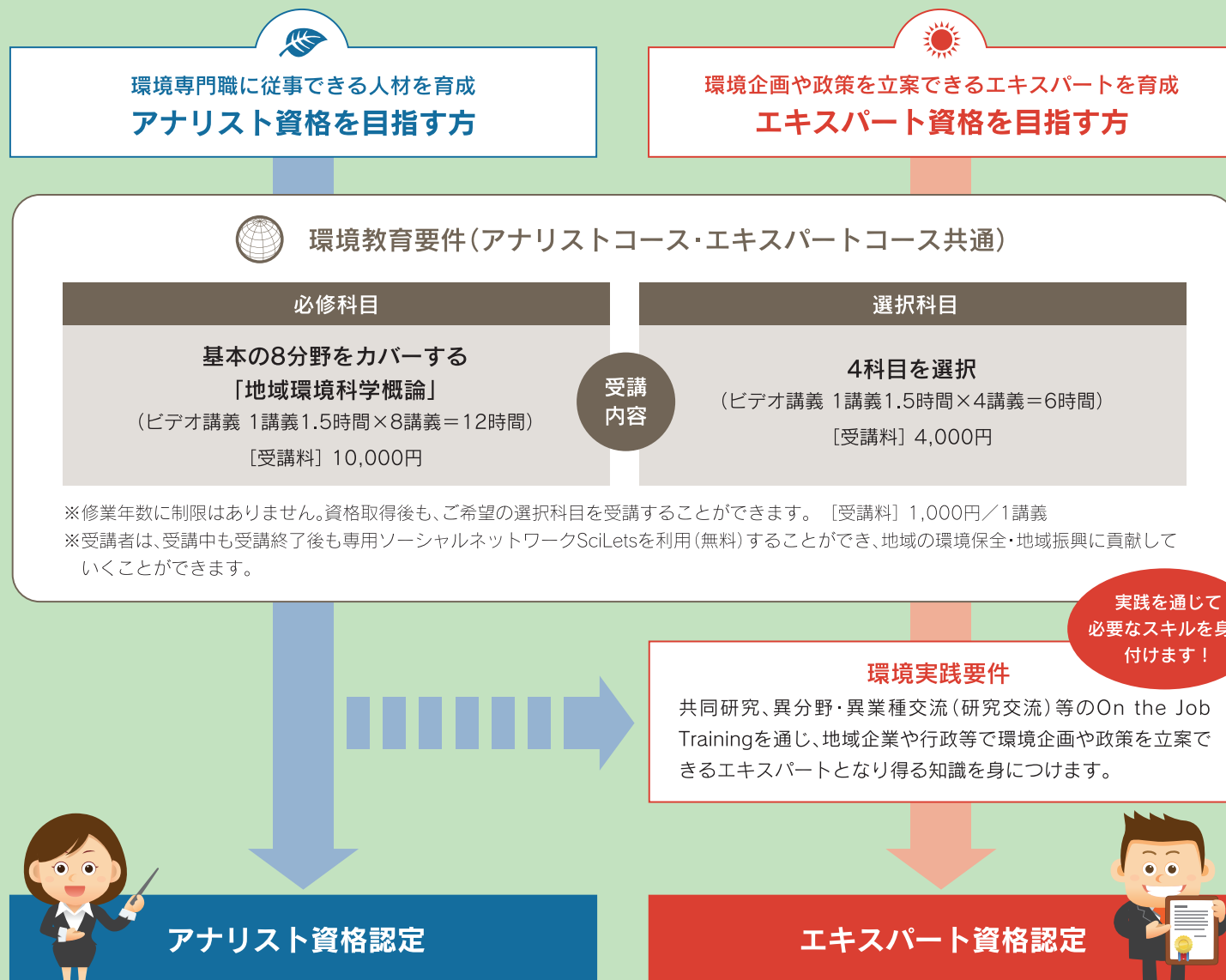
地域環境の保全と、地域に多く賦存する環境価値の利活用による地域活性化を目的とし、「ビデオ講義による資格認定」「異分野・異業種交流」「共同研究」などを通じて「科学的地域環境人材」を育成します。

- このような方・団体におすすめです
- 環境保全に興味があり、地域を環境価値・環境科学により振興したい方
  - 環境担当者の専門教育を行いたい企業や自治体
  - 環境担当者の初任者教育をOn the Job Trainingにより行いたい企業や自治体



## 資格認定について ～「科学的地域環境人材」育成のための「講義／研究交流」～

SciLetsビデオ講義または大学講義を受講することにより、アナリスト資格認定・エキスパート資格認定を取得することができます。＊エキスパート認定については環境教育要件（講義受講）以外に環境実践要件を満たす必要があります。



## SciLets ビデオ講義の開講科目／「地域環境科学概論」基本8分野

環境問題・環境評価	概論	「地球環境問題」について、最近の動向と科学的な評価法について解説する。まず地球環境問題では、公害から環境問題顕在化の歴史やその意義、さらに地球環境問題にはUNFCCC(国連気候変動枠組み条約)で議論されている気候変動問題や地球酸性化、健康リスク、生物多様性など多面的な問題があること、並びにそれらの概要を解説する。次に、環境負荷に関する評価方法と評価結果が持つ意味について解説する。日常生活のひとつひとつが環境負荷を及ぼすことにまず気づき、環境負荷を分析・評価できるLCA手法を知り、実際に行う手順を調べ、事例について分析・評価そして改善策を見出すスキームを紹介する。
エネルギー技術	概論	人々の生活の利便性の向上や開発途上国の経済伸長とともに、世界的にエネルギー多消費の時代となってきた。これに伴い生産活動も活発化し、地球温暖化に代表される環境の変化が天候の異変を起こしたり、生活環境を脅かすようになってきている。本科目では温暖化やエネルギー消費の実情、エネルギーの需給や省エネルギー・再生可能エネルギーの進展の状況を紹介します。また世界的に対策が最も進んでいると言われる我が国の省エネルギー技術と国内外での実施例を紹介する。
環境配慮技術	概論	地球環境負荷の低減と地球環境との共生は、非常に重要なテーマの一つになってきている。このような状況の中で、現在、様々な環境配慮技術が注目されており、次世代の有効な技術として、幅広い分野で応用されてきている。本概論では、「環境配慮技術」について、農業系と工業系の観点から解説する。農業系においては、生物の生息・生育環境に視点を置いた環境配慮対策、農業土木の開発と環境配慮技術、コンクリートのリサイクル及び環境負荷低減等を紹介する。一方、工業系においては、環境負荷低減を指向した排水処理技術と排ガス処理技術を講義する。
環境管理・ESD・SDGs	概論	本概論では、組織体が環境管理をする上で前提とするマネジメントとマネジメントシステムについて解説する。マネジメントシステムでは、昨今の国際規格(ISO)の考え方(ハイレベルストラクチャー:ISOマネジメントシステム規格の共通構造)の概要についても説明をする。また、本概論には、平成24年10月1日に施行公布された「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」についても一部解説をする。
環境関連法・行政	概論	地球上に現存する環境上の諸問題は、基本的に人間の経済的な活動という、本来有用な活動の副作用として発生したものである。したがって、その否定的な側面を完全に抑制してしまうと、今後は人間生活そのものが成立しなくなる。それではどうするか。環境破壊行為をする者に対して、主として国家がその活動の一部を強制的に抑制するしかない。経済活動が基本的人権であるとするならば、そのような抑制措置は主権者国民の意思の反映によって制定された法律で根拠づけられる。環境法規とは、このような場合に国家のとるべき手段とその限界、その考え方を規定したものである。
大気・水と食の健康リスク	概論	本概論では、環境要因による健康影響について特に、大気・水・食品に注目し解説する。過去、大気や水質の悪化は公害という大きな社会問題を引き起こし、また重大な食中毒事件もたびたび発生している。現在においても、大気汚染や水質汚濁、食品がもたらす健康被害が生じている。本講義では、大気汚染や水質汚濁をもたらす化学物質による健康被害とそれらを防止するための環境保全について解説する。さらに、食品の健康リスクについて、HACCPにおけるリスク分析を基に生物学的危害、次いで化学的・物理的危険について述べ、これらの対策と併せて食品成分表示の見方や賞味期限・消費期限の意味について説明する。
自然環境保護・生物多様性	概論	本授業では、講義テーマの出発点として重要な概念である「生態系」とは何か、から始まり、次いで国際的な合意である「生物多様性条約」とは何か、そして地球サミットで提唱された「持続可能な発展」とは何か、を考察する。次に目を転じて地域の自然ではあるが、ひとまとまりの生態系と考えられる「内湾流域圏」の保護・保全の考え方を紹介するが、それ以前に出てきた概念や考え方や方法が、この場面でもまた当てはまり、役に立つことを理解する。以上の流れをたどることで「自然環境保護・生物多様性」の基本問題を理解することができる。
気候変動問題	概論	人類は大気圏に暮らしている。従って、「異常気象や気候変動の仕組みを学ばざる者は地球温暖化問題を公で語るべからず。」と言っても過言ではない。地球温暖化を正しく学ぶための不可欠な分野が気象学・気候学である。人為による温室効果ガスの増加によって、猛暑や暖冬、豪雨の多発、北極の海水の減少が起こるのであれば、それらはどのような仕掛けで起こるのですか？皆さんはそれにきちんと答えられますか？この科目では、これらの答えを導くための基礎となる気象と気候システムのダイナミクスの基礎を講義する。

＊上記概論以外の詳しい選択科目の内容は〈WEBサイト〉<https://scienv.mie-u.ac.jp/> をご覧ください。